

古典の記述から読み解くオーロラと巨大磁気嵐  
～国立極地研究所・国文学研究資料館 訪問～

探究・学問の  
無限の可能性

国文研・山本教授

文

提供：『訓蒙天地辨』国文学研究資料館蔵



X

理

提供：国立極地研究所

極地研・片岡准教授

藤原定家(1162-1241)が残した『明月記』には、1204年2月21日と23日、京都でオーロラが見えたとの記述があります。これは1週間のうちに何晩も、京都のような緯度の低い地域でオーロラが観測された「長引く赤いオーロラ」の記録としては、これまでに調査されている中では日本で最古のものです。

(<https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170321.html>)

1 日時 令和2年3月10日(火)  
15時00分～17時00分

2 行先 立川  
(国立極地研究所・国文学研究資料館)

3 受付締切 12月25日(水)13時00分  
(進路指導室・金綱に提出)

〈担当〉金綱(進路指導部)